

第2回宇治市教育振興基本計画策定委員会会議録

日 時 令和3年8月25日（水） 午後2時00分 開議

場 所 宇治市生涯学習センター 第2ホール

会 議 日 程

1. 開会
2. 前回委員会後にいただいたご質問等について
3. 協議 次期「宇治市教育振興基本計画」の骨子案について
4. その他
5. 閉会

会議に付した事項 会議日程に同じ

出席者

（策定委員）

委員長	京都教育大学教授	榊原 禎 宏	副委員長	北宇治中学校長	吉田 英 司
委 員	京都文教短期大学准教授	桑原 千 幸	委 員	宇治市連合育友会長	丹羽 寛 美
委 員	宇治市連合育友会副会長	竹内 理	委 員	菟道小学校長	島田 尚 明

（事務局）

部 長	伊賀 和 彦	副 部 長	上道 貴 志
教育支援センター長	林 口 泰 之	教育総務課長	栗田 益 典
学校管理課長	吉田 健一 郎	生涯学習課長	齊藤 政 也
学校教育課長	吉田 秀 平	教育支援課長	金 久 洋
学校教育課副課長	藤田 祥 尚	教育総務課企画庶務係長	北池 颯 子
教育総務課企画庶務係	前田 圭 祐		

開 会 （午後2時00分）

1. 開会

委員長が第2回「宇治市教育振興基本計画策定委員会」の開会を宣言する。

2. 前回委員会後にいただいたご質問等について

質問事項は3点あった。まず1点目は、「前回の基本計画策定時には、早期の段階で市

民の意向を反映するためのアンケートを実施したが、今回は市民や児童・保護者等を対象とするアンケート調査等の実施予定はあるのか。」という質問である。前回は、3つのプランを一つにした、初めて策定する基本計画でもあり、幅広くアンケートを実施したところであるが、今回はアンケートを実施せず、令和元年度まで実施していた小中一貫教育のアンケートや全国学力・学習状況調査におけるアンケート、同じく今年度策定する図書館事業計画や子ども子育て支援計画など、参考にしていきたいと考えている。

2点目は、「宇治市総合計画審議会の教育分野についての方向性と合わせる必要があるが、本委員会とどちらが主導権を持つのか。また、宇治市総合計画審議会での方向性を知りたい。」という質問である。現在策定中の次期宇治市総合計画は、宇治市教育振興基本計画の上位計画に当たるものである。本委員会の意見については、総合計画審議会の担当部局に伝えながら、宇治市総合計画の教育的なビジョンと本計画の整合性を図っていききたいと考えている。

3点目は、「次期教育振興基本計画について、小中一貫教育、分散進学などの方向性についても表現するのか。」という質問である。現在、本市においては、義務教育9年間を見通した小中一貫教育を実施している。また、分散進学（1つの小学校から2つの中学校へ進学）についても、課題と考えているので、どういう表現が良いのかは今後検討していく。

3. 協議 次期「宇治市教育振興基本計画」の骨子案について

[説明]

次期計画の名称は第2次宇治市教育振興基本計画（仮称）で、計画期間は令和4年度から令和15年度（12年）であり、期間中の見直しを予定している。法的根拠は教育基本法第17条に基づく教育基本計画である。

はじめに、新しい宇治市教育振興基本計画の骨子案の概要であるが、計画の基本事項については、「計画への市民意向の反映」、「計画策定の背景」については記載しない。教育ビジョンについては、教育理念は現計画と同様とし、目指す人間像は現計画に加え、「社会の変化を前向きにとらえ、主体的に行動できる人」、「よりよい「あすの宇治」と幸福な人生を創り出せる人」という案をあげている。目指す人間像に向けた教育の基本目標については次期計画に記載しない。全体としては、現計画と大きく考え方を変えず、教育理念については、「知・徳・体」を今の時代に合う文言について検討してはどうか、また、市の総合計画のビジョンとの整合性も必要と考えている。また、京都府教育振興プランの目指す人間像や府と市の共通的な目標を合わせる必要があると考えている。

教育推進プランについては、現計画では目標1から3、施策1から14となっているが、次期計画では、(1)から(7)に集約したいと考えている。また、これらの施策の共通項目として、「教育ICT」、「特別支援教育」、「幼児教育・保育」をあげている。

表記の順序については、現計画と同様に表記し、目標値・指標値は今後検討する。計画の推進については、現計画ははじめての計画ということもあり「的確な情報の発信」という文言が入っているが、次期計画では省く。点検評価に関しては、「PDCAサイクルの

推進」を追加する。現状の課題と推進施策と主な取組に関しては、京都府教育振興プランを参考にと市長部局に移管したスポーツに関する箇所を削り、宇治市独自で実施していることを追加する予定である。

次に、本委員会で協議いただきたいポイントとしては、「教育理念の考え方 「知・徳・体」を今の時代に合う文言について」、「京都府教育振興プランの「目指す人間像」との関係について」、「教育推進プラン」の7施策の取組むべき内容について」である。これらのポイントに加えて、第1回策定委員会後にいただいたキーワード等を含めてご議論いただきたい。また、参考として第1回策定委員会の主な意見を記載している。

<目標について>

- [委員] 目指す人間像が2つ増えて4つになるのは多いと感じる。「あすの宇治」という文言は意味が広くてよくわからないという印象を受けた。教育推進プランの目標を無くすのはわかりやすくなると感じた。
- [事務局] 目指す人間像については、4つでなく、下の2つが次期計画の案である。
- [委員] 目標に関して、子どもを学校に通わせる立場としては、学校がどのような人間に育ててくれるのかわかる方が安心できる。
- [委員] 社会変化や多様性を認めていくことも大切だと感じているので次期計画に入れる必要がある。
- [委員] 教育ビジョンについては、ミニ京都（府教育振興プラン）という感じの狭い範囲でのビジョンになっている。もう少し大きな視点で考える必要があると感じる。
- [委員] 宇治の子どもにどういう風に育ててほしいかということ表現できればよい。郷土色をアピールしてもよいのではないか。
- [委員] 目標について、学校教育の場では、授業ごとにゴールを決めて進めている。目指す人間像の案について、学習指導要領は、先行きが不透明な中で生き抜く力ということが謳われているので、社会の変化を前向きにとらえて宇治だけでなく、世界に向けて発信し活躍できる子どもたちを創っていくことが大切だと感じる。また、宇治市の人口が減っている中で宇治市を支えていく人材が必要だと感じている。その中で、世界に出ていったとしても、宇治市で育ったことを誇りに思っしてほしいので、「世界に誇るあすの宇治」をという文言はよいと思う。
- [委員] どういう人物像を目指すかがないと、その時々先生方の思いでばらばらに学校教育を進めていってしまうことになる。現計画ではあまりにも多く宇治という言葉が出てきているが、そこに固執するのではなく、ふるさと宇治を誇りに思っ、その上で世界に向けて羽ばたいてほしいと思う。
- [委員] 目標を特定の姿に固執しないような人間にするという方法もある。物事を広く考えられる人間像を目指すべきだと思う。100年以上続いている会社は大半は日本にある。長寿の秘訣は絶えざる革新という伝統を守ることだという。偏見を持たない、他者に寛容、受容力を持った人間像、そこに宇治ならではの表現ができればよいと思う。

[委員] ふるさとを守るよりも、今あるものを肯定的にとらえて外に出ていくという考え方はよいと思う。

<施策のポイントについて>

[委員] SDGs（持続可能な開発目標）やESD（持続可能な開発のための教育）、環境に配慮した暮らしということを計画に落とし込む必要があるのか。

[委員] SDGsは17個の課題に対して取り組むことができる子どもたちを育てるという考え方である。SDGsを取り組むとすれば、宇治市の取組と合わせないといけない。

[事務局] 市の総合計画でもSDGsに取り組んでいる。総合計画内の施策にSDGsの視点が入っていくというイメージである。

[委員] 誰も取り残さない、包み込まれている等、社会的関係の中で生きていくということに関して、普段は助け合いましょうと言いながら、学力テストの時は競争している。テストも班で集まって回答を導き出す等、周りと助け合う経験をしてほしいと思う。

[委員] 課題解決学習がそれにあたると思う。地域の困りごとを解決していこうという学習である。

[委員] 宇治市での事例は聞いたことはない。

[事務局] 個々の学校では取り組んでいないが、PBL（課題解決型学習）の考え方としては宇治学の中で示している。実際には府の取組に参加する形で実施しており、事例として、宇治黄檗学園で辻利さんと協力しお茶を世界に売るためにはどうするのかを考えてプレゼンテーションしている。他にも広野中学校等で取組を行っている。

[委員] タブレットが一人一台行き渡ったことで、それぞれの考え方で調べて、他の子どもにも伝えられるというのはよい学習だと感じている。

[委員] 前にいた学校では、宇治学で宇治のパフレットを作って、宇治の観光協会にお渡しした。

[委員] 学校は学年ごとに区切って学習してきたが、学習の場は学校だけである必要がなくて、様々な施設と複合的に学べる場であってもよい。

[委員] 様々な年代が学校に集まればよい学習になるかもしれないが、管理上難しいと思う。

[委員] 社会教育に関わる方は学校に入りたいと思っているが、実際は難しい。今後はコミュニティスクール等を通して、地域の様々な人と関わることは必要な方向性だと思う。

[委員] 学校の建て替えや改修の際に、施設の複合化を考えてもよいと感じている。

[委員] 小中学校でのグローバルに関する教育はどのようなものがあるのか。

[委員] AETの先生が英語授業に入ってもらっているが、語学教育としてやっている。外国籍の子どもが多いということや、他国との連携等はない。国際理解教育とい

う分掌はあるが、なかなかできていないのが現状である。

[委員] 小学校が直接取組を行うことは無いが、近隣学校との連携の中で、立命館高校が小学校に働きかけて、Web会議で外国の子どもたちと交流を持ったということはあった。

[委員] 外国籍の子どもは宇治ではどうか。

[事務局] 特定の地域に集中していることが多い。

[委員] 多様な子どもを含めた教育環境の整備の必要があると感じる。

[委員] 数十年前ならば一律で対応していたが、今は特別支援という視点で対応している。

[委員] 大学生の時に特別支援に関して、小学校に行ってボランティアをしていた。そうすることで、大学生も子どももよい影響があると思う。

[委員] 大学や支援学校等の地域資源を活用することも考えてよいと思う。

[委員] 生涯学習では不登校の子どもの居場所作りをやっていくべきだという意見がある。

[委員] 経済産業省が出している未来の学校では、学校は週3日通学し、そのほかは図書館や大学に行ったり、学校とは別の場所に学びに行くこととなっている。学校に行く日数が少くなると不登校の子が目立たなくなるということもあるかもしれない。

[委員] 子どもの居場所作り等の取組に保護者の参加が少ないことについて、子どもは学校に行ってもほしいが、PTA役員や地域の活動はしたくないという保護者が多い。保護者の意思が変われば居場所作りの取組もすすむと思う。

[委員] 家庭の教育力について、学校に対してお客さん感覚の保護者が多い。子どもたちが地域社会に溶け込み、地域に育ててもらっているということを知れば、保護者の考えも変わるのではないか。

<最後にひとこと>

[委員] 目指す人間像から施策へのつながりがわかりにくい。現計画の教育推進プランの目標3「市民の社会還元力」という文言は次期計画の施策(6)に残してもよいのではないか。

[委員] これから先12年間という長い期間の計画なので、施策等はその時代に合わせて見直しを行う必要があるが、骨子となる部分はしっかり決める必要があると思う。

[委員] 目指す人間像について、宇治が大好きな子どもが育てば、宇治のために何かしようという考えにつながる。そういう人材は大人になってから社会教育に参加しようと思うので、よい循環になる。

[委員] 現計画で宇治市は小中一貫教育を掲げて教育してきた。今後小中一貫教育を推進するなら、計画の中で触れなければならないと感じる。また、府の振興計画はバイブルのように叩き込まれてきている。市の振興計画に関しても先生方に授業の中で意識をしてもらおう部分になるので、宇治市の教育の考え方の多くをしめ

ている小中一貫教育の推進を大きく書く必要があると考えている。もし書かないのであれば、過去の取組を否定しない形で取り入れていく必要があると考える。

[委員] 新型コロナウイルス感染症に関して、施策の中では対策等を入れていかないといけないと感じている。循環型生涯学習社会について、個人が学んだことを社会に発信し他の人の学びにつながるという意味だと思うが、もっとわかりやすい文言に変えた方がよい。次期計画の(5)は地域、社会、学校の3者連携ということだと思うので、そういったことがわかる文言に変えた方がよい。地域教育力との連携という文言はおかしい、地域社会でよいのではないか。Well-Being について、幸福な人生やよりよく生きていくという意味だと思うが、キーワードとしてはよいのではないかと思う。

4. その他 事務局から日程調整に関する事務連絡を行う。

5. 閉会 委員長が閉会を宣言する。

閉 会 (午後4時00分)